

# 月刊島民

中之島

Vol.117 2018 4/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島 香雪美術館  
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art.

香雪美術館から広がる世界。



ナカノシマ大学

「ソースダイバーの  
冒険」

堀埜浩二 曾束政昭

申し込み受付中!

祝・中之島香雪美術館オープン

# 「村山コレクション」のあゆみ。

中之島フェスティバルタワー・ウエストの開業から約1年、いよいよ中之島香雪美術館が開館する。その主役となるのは、朝日新聞社を創業した村山龍平が遺したコレクション。そこには雅号「香雪」を名乗る数寄者であった、村山の人柄や生き様を垣間見ることができ、代表的な美術品を通して、コレクターとしての村山龍平の輪郭をなぞってみよう。

取材文／杉本恭子



## 重要文化財 「稚児大師像」Ⅰ

●鎌倉時代(13世紀)  
絹本着色 一幅  
幼き弘法大師空海のあどけない童形を描く。輪郭に截金(きりかね)を施した円相の中で、蓮華座上で合掌する童子の姿は愛らしくも崇高である。

◎作品名横の数字は出展される会期を示しています(詳細はP7)。

## 使命を趣味に変えた男、 日本美術の危機を救う。

村山龍平が美術品収集を始めたのは、明治20年(1887)頃とされている。当時、日本各地の寺院が持つ仏像や宝物は、明治初期の廃仏毀釈、そして西洋化の荒波に揉まれた末に、二束三文で古物商に売られるという憂き目に遭っていた。あの興福寺の五重塔が売りに出される? というような怪情報まで流れる始末。このままでは日本の優れた美術品がどんどん海外に流出してしまう——。明治の最先端メディアたる新聞の経営者が、指をくわえて眺めているだけではないのか? 村山は文化財保護のための収集に乗り出すことにした。

## 時代をつかむ記者の力に 支えられたコレクション。

当時の朝日新聞社は、村山と上野理一による共同経営。二人は公私ともによきパートナーで、美術品の収集でも通じ合うところがあった。文化財保護のための美術品収集には、上野も同時期に取り組んでいた。コレクション収集を支えたのは社内外の知識人たちである。まず、二人に日本の美術品の危機を説いたのは、朝日新聞創立に

# はじまりは仏教美術。

朝日新聞社の経営を通して、優れた日本の仏教美術品が海外流出の危機に瀕していることを知った村山。大メディアを率いる者として、文化財保護という使命感のもと、私財を投じて収集した仏教美術コレクションは、絵画から彫刻まで優品ぞろいである。

## 重要文化財「梁楷筆『布袋図』」<sup>I</sup>

●南宋時代(13世紀)紙本墨画 一幅  
頭陀袋をくりつけた杖を肩に担ぎ、軽やかに歩む天真爛漫な姿から「踊布袋図」の名も。墨の線だけで描かれたとは思えない躍動感だ。



## 重要文化財「二河白道図」<sup>I</sup>

●鎌倉時代(13~14世紀)絹本着色 一幅  
左に怒りの煩惱を表す火、右に貪欲の煩惱を表す水の河。この間にある一条の白道を、此岸の釈迦、彼岸の阿彌陀如来に励まされ、上段に描かれる美しき極楽浄土へと歩むことを説く。



## 重要文化財「薬師如来立像」<sup>IV</sup>

●平安時代(9世紀) 木造  
櫃(かや)の一木造。ふっくらした顔に彫りの深い目元に引き締まった口元、量感ある体つきなど、特異な造形感覚を示す、貴重な作例である。



3

彼らに支えられながら、村山と上野は新聞社経営の合間を縫って、古美術品を熱心に探し求めた。ちなみに、上野コレクションは昭和35年(1960)、子息の故・上野精一氏によって京都国立博物館に寄贈されている。

もともと、村山に美術理解の素養がまったくなかったわけではない。父である万葉研究家の歌人・守雄による薫陶は少なからず受けていただろうし、また十代半ばには刀剣の研究に熱中していた。

また、この時期に新聞社の経営が軌道に乗りはじめたことも関係しているだろう。朝日新聞は明治18年(1885)に3万部を突破し、明治21年(1888)には東京朝日新聞を創刊。その2年後には国内新聞

も関わった松本幹一。宮内省などの古社寺宝物取り調べに朝日の特派員として随行し、日本美術の研究に目覚めたという。朝日新聞の客員論説委員だった高橋健三とその甥で美術史家の滝精一、記者として紙面で美術論を展開し、のちに京都帝国大学教授となる内藤湖南らも、村山らのコレクションの充実に力を貸している。



### 美濃「志野茶碗 銘 朝日影」<sup>あさひかげ</sup> I

●桃山時代(17世紀)  
村山がこよなく愛した名碗。「朝日影」の名は、『新千載和歌集』所載の西園寺実氏の和歌にちなんで、村山自らがつけたという。

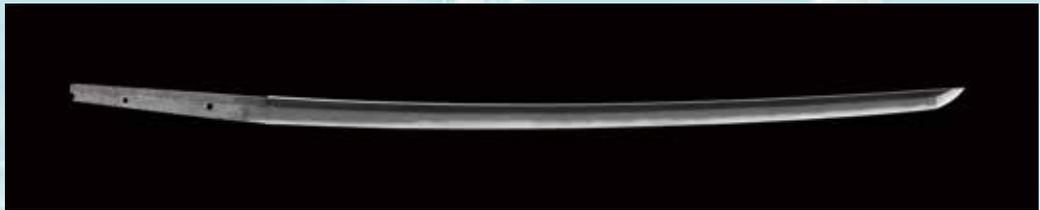


## 名作を、 きちんと。

武具、仏教美術、書跡、絵画、そして茶道具。幅広いジャンルごとに名作が揃う村山コレクションは、あたかも日本美術の教科書。財界でも存在感を増しつつあった村山が、立場にふさわしい教養として、自らの目と手で美術を学ぼうとした姿勢が感じられる。

### 重要文化財「太刀 銘 吉家作」<sup>I</sup>

●鎌倉時代(13世紀)  
吉家は、平安時代の刀工・三条宗近の子と伝えられる。細身で反りの浅い優美な太刀姿に特色があり、この太刀はとりわけ格調高い。



社として初めてマリノ二型輪転機を導入し、部数を8万部まで伸ばす勢いだった。文化を理解する素養と収集に取り組む余裕。この二つの条件が、コレクター・村山の背中を押したことは想像に難くない。

### 「金は出すが、口は出さない」 美術雑誌『國華』をサポート。

村山コレクションを語る上で、日本美術研究誌『國華』<sup>こっか</sup>の存在は見逃せない。『國華』はかの岡倉天心と官報局長であった高橋健三が、日本美術の保護と発展のために明治22年(1889)に創刊。現存する美術雑誌のなかでは世界最古の歴史を誇る。

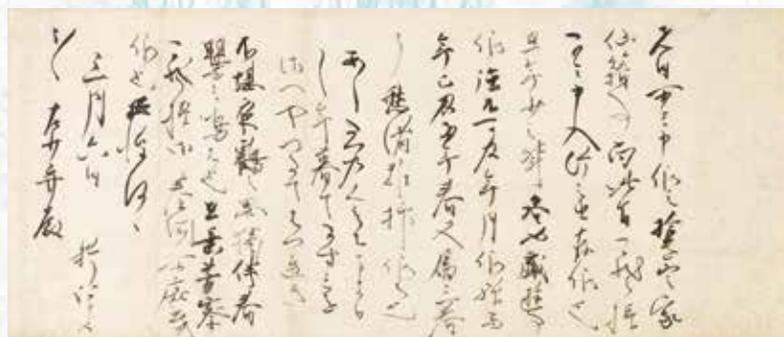


「保存は進歩の基礎、進歩は保存の結果」と、美術の保存と進歩を掲げた創刊号は、特別につくらせた紙に写真はコロタイプ印刷、挿絵は木版色刷で迫真を極めた超豪華なつくり。うどん1杯が1〜2銭の時代に1冊1円という高価さと相まって世を驚かせた。しかし、岡倉と高橋が借金をして始めた採算度外視の雑誌は早々に資金難に陥ってしまう。このとき、ポケットマネーで援助したのが村山と上野だった。二人は「金は出すが口は出さない」の姿勢で、発行を終生援助し続けたという。

とはいえ、『國華』の経営に関わったことは、村山の美術理解を深めることに大きく寄与したことだろう。自らのコレクションから、誌面に掲出した作品も少なくない。

重要美術品  
長谷川等伯筆  
「柳橋水車図屏風」Ⅱ

●桃山～江戸時代  
(16～17世紀)  
紙本金地着色 六曲一双  
宇治橋に柳、川の流れと水  
車・蛇籠、低く懸かる半月を描  
く「柳橋水車図」は、「桃山  
百双」の典型。長谷川派が  
好んだ画題の一つだ。



重要文化財 藤原俊成筆  
「消息 左少弁殿宛」Ⅰ

●鎌倉時代(文治2年・1186)紙本墨書 一幅  
宮中で諍いを起こし、殿上人を除籍された藤原  
定家。その恩赦を、父・俊成が左少弁に嘆願し  
た書状である。

伊勢物語図色紙 V

●室町時代(15世紀)  
現存の伊勢物語絵の中でも  
制作期の早い優品。人物の  
描写が愛らしい。17枚残る  
が、当初は30枚以上に及ん  
だと推測される。初公開。



村山が最も美術品収集に情熱を傾けたのは、明治20年(1887)代と考えられている。「名品といわれるものはいこ

50歳を過ぎて茶の道へ。  
コレクター魂も再燃。

「村山龍平のコレクションには、これが好きとか、これを集めたいという欲望があまり感じられません。周りの人の声に耳を傾け、幅広いジャンルを網羅しながら、きつちりと偏りなく揃えられている。まるで日本美術の教科書のようにです。新聞社の経営とはきちんと線引きしており、踏み外すこともない。コレクターにありがちな破綻したようなところが一切なく、もともと集めることに熱中するタイプではなかったのではないかと思いますね」

収集の目的は人に見せびらかすことではなく、あくまで美術品の保護や自らの教養とするため。旺盛な好奇心と共に謙虚な姿勢を持ち合わせた、村山の人柄が滲み出ている。

人に誇るための収集にあらず。  
好奇心と謙虚さを兼ね備える。

周囲の優秀な指南役の助言も含めて、村山コレクションはいつその充実を見せることになる。一方で、そこにはどこか淡淡とした視線が感じられると、学芸部長の勝盛典子さんは言う。

「國華」は村山コレクションを読み解く貴重な資料の一つでもある。



野々村仁清作  
「色絵花唐草文鱗形香合」II

●江戸時代(17世紀)  
野々村仁清は江戸前期の京都の陶工。繊細な金彩が印象的である。仁清のプロデューサーであった茶人・金森宗和好みのデザイン。



野々村仁清作  
「色絵忍草文茶碗」II

●江戸時代(17世紀)  
抽象的な釉薬の流れと具象的な忍草との対比が斬新である。自然に委ねたように見える釉薬の流れは、実は意図的に操作されている。

# 茶道のたしなみ。

50代になった村山は、茶道家の藪内節庵の道場に入門し、本格的に茶の湯を始めた。上野らと発起人になって、関西の実業家18人による茶会「十八会」を立ち上げた。茶道のたしなみは、村山コレクションに茶道具という新たな分野を加えた。



喜多川歌麿筆「月見の母と娘」III

●江戸時代(19世紀)絹本着色 一幅  
青竹に生けられたすすぎと菊が、母子の視線の先に中秋の名月があることを示す。娘に月を指し示す母親のやさしい心情が感じられる。

の時代すでに村山家に入っていた」という。しかし、明治30年(1897)に古社寺保存法が施行され、国による文化財保護が始まると、自分の役割を終えたと感じたからだろうか、旧大名や公家の蔵から出た骨董品の値が高騰するのを見ても、「馬鹿馬鹿しい」と食指を動かさなかったらしい。

一方で、茶道のたしなみは、村山のコレクションに新たな一面を加えることになった。若い頃から茶道をたしなんでいた上野とは違い、村山は「茶事は老人くさい」「面倒くさい」と見向きもしなかった。ところが、50歳を過ぎて藪内流の藪内節庵に師事し、本格的に取り組むようになると、明治35年(1902)には上野と藤田組の藤田伝三郎と共に「十八会」という茶会の発起人になっている。

この会のメンバーがすごい。住友吉左衛門、松本重太郎、磯野小右衛門、田村太兵衛、芝川又右衛門、嘉納治郎右衛門、喜納治兵衛ら、関西実業界の礎を築いた錚々たる顔ぶれである。

十八会では毎回くじ引きで会主を決め、それぞれに趣向を凝らしたという。村山も第3回の席主を務め、茶碗や花器には自らのコレクションのものを使ってもてなした。

**見習いたい、村山の「好きになり上手」。**

おおよそ10〜20年ほどの間とはいえ、一流の美術研究家の手ほどきのもとに整えられたコレクションは極めて端正なものであ





昭和4年(1929)、朝日新聞の創刊号第1面が絵葉書になって発行されたもの(大阪市立図書館蔵)。右に村山、左に上野理一の顔写真がある。

# 村山龍平

これぞ波乱万丈

黒船が浦賀沖に現れる3年前。村山龍平は伊勢国田丸藩(今の三重県度会郡玉城町)に生まれた。少年時代は、ケンカに負けそうになると、腰に差した一尺余りの小刀を振り回し、周囲を閉口させることもしばしばだった。

ところが、思春期を過ぎると見違えるほど冷静沈着な少年に。藩の剣道指南・橋内蔵介

に学んだ柳剛流に熟達。砲術訓練所ではカノン砲やホイッチェル砲を巧みに操縦し、その改良工夫にも余念がなかった。田丸藩が盛んに教えた水泳術にも熱心で、よほど自信があったらしい。50代半ばを過ぎて、「瀬戸内ぐらいならどこで難破しても岸まで泳ぎつく自信はある」と豪語したそう。

## 武士に未練を残さず 一家全員で大阪へ。

村山家は、藩主・久野家に8代にわたって使えた上士の家柄。龍平は17歳の春から田丸城に出仕した。しかし、その半年後に最後の將軍、徳川慶喜は大政奉還。村山家は廃藩置

県により俸禄(給料)と身分を失ってしまう。しかし、村山家の人々は武士の特権に未練を残さなかった。明治2年(1869)には田丸を引き上げ、宮川べりの家に閑居した。龍平は洋々たる前途を断たれてもグレることなく晴耕雨読。時に川の魚を追いながら、身の振り方を熟慮した。官界へ打って出るか、実業界から国家に貢献すべきか? 閑居から2年が過ぎた頃、心齋橋で雑貨商を営み成功した田丸出身の知人が村山家を訪ね、大阪の繁栄を説き聞かせた。「大阪に出よう」。村山家の決断は早かった。喜寿を迎えた祖父・閑齋、父・守雄、母・鈴緒ら一家6名は故郷を離れ、大阪へと移住する。

鬚を切った五分刈り頭。刀から算盤に。

明治4年(1871)春、村山家は京町堀二丁目(居を定めた。龍平の大阪暮らしは市中を歩き回って地理を覚え、商売の様子や船舶出入りの観察から始まった。同年8月、散髪脱刀令が公布されると散髪屋に飛び込んで鬚を切って五分刈りに。そのままの勢いで算盤教室の門を叩いた。約1年半後、龍平はようやく腰を上げて西洋雑貨商「村山商店(商号・田丸屋)」を開業。商売慣れない元士族がどンドン倒産するなか、龍平は堅実に売上を伸ばし、仲買貿易業へと手を広げた。輸人品取引のノウハウを教えたのは、旧船場以来の唐物取引の大手・芝川又右衛門である。龍平は面識も紹介もなく芝川を訪ね「何か心得があれば教えてほしい」と懐に飛び込んだ。芝川もあまりに熱心な龍平に心動かされて取引を承諾。後に龍平が朝日新聞社を経営するようになってからも、よき相談相手であり続けた。ちなみに芝川又右衛門とは、今も船場に残る芝川ビルを建てた人物だ。





## 実業家の道を進むも、新聞社起業に巻き込まれる。

田丸屋の経営が軌道に乗り始めた頃、龍平は同じ京町堀の西洋雑貨商「泉屋」の主人・木村平八と意気投合。明治9年（1876）、互いの店を合併し、「玉泉舎」という新屋号のもと共同経営を始めることになった。

龍平は万事に義理堅く目のつけどころもよいので、ほどなくして同業者の信頼を得た。大阪商法会議所が設立された時には議員に選出されもした。

朝鮮貿易にも着手し、実業家として手応えを感じはじめた矢先、予想外の相談が持ち込まれた。木村とその息子・騰が、大阪に新しい新聞社をつくりたいと言うのである。

木村は息子の後見役として龍平を社長に据えて、明治12年（1879）1月25日に朝日新聞を創刊。しかし、わずか2年後には経営に困難をきたし、木村は龍平に新聞社の譲渡を持ちかける。貿易の仕事の片手間では、新聞社の再建はかなわない。熟慮の末、龍平は情熱を注いできた貿易業を手放して、新聞事業に専念する覚悟を決める。



## 背中であつたリーダーシップ。

明治18年（1885）6月末、手狭になつた京町堀の社屋を、旧宇和島藩邸の蔵屋敷へと移転。折しも長雨と暴風雨で大阪市内のほとんどが浸水する大洪水のさなかのことだつた。

土佐堀川の橋がすべて失われるなか、龍平は堂島に避難した父母を見舞つた後、白米1俵（約60キロ）を背負い、大量のちりめんじゃこを入れた籠にぶらさ

## 実は機械いじりも好き。イノベーターとしての顔。

経営者としての才能に加えて、龍平にはイノベーターとも言

うべき性質があつた。田丸藩で過ごした青年時代には、威力の弱いキャノン砲の改善に取り組んだし、商いを始めてからは仕入れたランプの口金の工夫を考案。後に、芝川商店とともにランプの口金専門の製作所「三平社」を起業し、成功させている。

日本の新聞で初めてマリノニ型輪転機を導入したのも村山の判断だつた。飛行機時代の到来を予見し、明治44年（1911）には、社運をかけて「飛行会」を開催。当時一流の

飛行家を招聘し、大阪市民の眼前で飛行させた。大正12年（1923）には東京・大阪間に定期航空路を就航し、大正15年（1926）には朝日新聞社に航空部を発足させてもいる。

新聞編集においてもイノベーターの才覚を発揮した。大衆のための新聞として、ニュースに加え、連載の読み物や雑報記事をほどよく配置する必要性を強調。この工夫は功を奏し、「朝日新聞は平易で読みやすい」との評判で部数を伸ばした。

げて、濁流を縫うようにして出社。その勇姿のみならず、言葉でも励ました。「いかなる変災に面しても、またいかなる故障が生じても朝日新聞はみだりに休刊することはできない。」

記者は浸水した社屋で原稿を書き、職工は水に浸かりながら新聞を刷り上げた。龍平はさらに励ました。「この非常大変災に際しては、一篇の記事報道といえども、恐怖に襲われている大阪市民に対しては千鈞の重きを為す。新聞の使命を果たすはこういう時である。」

村山家の嗣子・長拳は、龍平の性格について「熟慮と果敢」であると書き残している。決めたことはあくまでやり通す厳しさの反面、家族や若年の者に対してはあたたかく包容し、ほがらかに接する人でもあつたという。幼い孫と共に映つた写真を見れば、その顔はまさしく好々爺そのものだった。





ソースで味わう  
下町の真実

◎今月の授業

# 【地ソース】

2018年5月講座

## 「ソースダイバーの冒険」

講師／堀埜浩二(説明家)

曾東政昭(まんぶくライター)

ゲスト／坂井一喜(株式会社石見食品工業所代表取締役)



大阪・神戸・京都の下町に、  
お好み焼き&串カツのある風景と  
地ソースづくりの現場を訪ねて。

大阪をはじめ、神戸や京都の街がソースと関わりが深いことは論を俟たない。しかし、それは「コテコテ」や「粉もん」の類のステレオタイプでは決して理解できない、歴史と生活に根ざしたものである。本来それは誰もが知るところのはずだが、丁寧に表現しているメディアは少ない。

そんな中、京阪神のお好み焼きや串カツの店を多数取材し、地ソースメーカーの工場を訪ね、グロメ的ではない「下町文化としてのソース」について書かれたのが『大阪ソースダイバー』(ブリコロール・パブリッシング)だ。昨年7月の発売当初から、一部の書店では本と

共に本書で紹介した地元・大阪の地ソースフェアを展開するなど、街の話題となった。

今回はその著者であるお二人が、ソースと京阪神の街の関わりについて、取材時の臨場感たっぷりにご紹介。また、生産量が少ないために「幻のソース」と言われるヘルメスソース(大阪市東住吉区)の坂井一喜社長をゲストにお迎えして、意外に大阪市内にも多い、地ソース造りの現場や関西の地ソース事情なども交えながら、下町とソースの真実をお届けしよう。

### 大人気! ヘルメスソースをプレゼント。

ゲストの坂井一喜さんは、「ヘルメスソース」でおなじみの石見食品工業所の3代目。地ソースづくりにかける思いや舞台裏を知ることができる貴重な機会だ。来場者にはもちろん、ヘルメスソース(200ml/瓶入り)をプレゼント。通販では1ヶ月待ちという大人気商品。



募集要項	<p>「ソースダイバーの冒険」</p> <p>日時／2018年5月17日(木)</p> <p>7:00PM~8:30PM頃(開場6:30PM~)</p> <p>会場／堂島ビルヂング 9階会議室</p> <p>受講料／2,300円(ソース付き)</p> <p>定員／80名</p> <p>主催／ナカノシマ大学事務局</p> <p>協力／ブリコロール・パブリッシング</p>	<p>お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。</p> <p>〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルヂング602号 「ナカノシマ大学5月講座」受付係 FAX.06-6484-9678</p> <p>※先着順で受付後、4月20日前後より受講票をお送りします。 ※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。 ※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。</p>
------	---	---

ナカノシマ大学の最新情報は

<https://nakanoshima-daigaku.net/>

ケータイや  
スマホからは  
こちら!→



お問い合わせ  
☎06-6484-9677  
(ナカノシマ大学事務局)

## 四月席の「案内」

申込締め中

●お題「科学」

### 「空に憧れて」

いつの時代の人びとも一度は空を飛ぶことに憧れたようだ。4月の天神寄席は古典落語から創作落語まで、そんな好奇心くすぐる名作が勢ぞろい！

鼎談のゲストには、大阪市立科学館の学芸員である長谷川能三さんが初登場。日常にひそむ科学のふしぎを面白くわかりやすくレクチャーする長谷川さんの「サイエンスショー」は子どもから大人まで大人気。どんな吹っ飛び話が出てくるのか楽しみだ。

落語「桂りようば」「鷲捕り」

桂文鹿「さわやか航空652便」

桂三風「愛宕山」

笑福亭鶴笑「立体西遊記」

桂塩鯛「天狗裁き」

鼎談「吹っ飛びサイエンスショー」

ゲスト／長谷川能三（大阪市立科学館学芸員）

高島幸次（大阪大学招聘教授）

桂春團治

### ナカノシマ大学でお得な前売り券を発売中！

開催日／4月25日（水）

開演時間／6:30PM（開場6:00PM）／受付開始5:45PM（）

受講料／2300円（通常・前売2500円／当日3000円）

お支払い方法／当日（5:45PM）、繁昌亭入口付近の「ナカノシマ大学受付」にてお支払いください。

※予定枚数に達し次第、予約受付を終了します。※ナカノシマ大学では当日券の販売は致しません。

●お申し込み方法、お問い合わせ先はP10を参照してください。

ゲストの長谷川能三さんは虹などの気象光学現象が専門。



桂塩鯛さんが演じる「天狗裁き」。男が見た夢を巡り、天狗が登場！



パペット落語でおなじみ笑福亭鶴笑さん。大爆笑間違いなしの「立体西遊記」。

イラスト／フジワタモコ

## 二月席の「案内」

御披露開始

鼎談「男女協働を語る」

工藤真由美 桂春團治 高島幸次

高 ゲストの工藤先生は大阪大学に8人いる副学

長のひとり、男女協働

推進を担当されています。

工 確かに海に飛び込む

覚悟で頑張ってますが…

私の学生時代は学問の世

界もまだ男尊女卑で、先

生も学生も男性中心だっ

たんです。大学の理想と

しては、女性もたくさん

いる、性的マイノリティ

の方もいて、海外からも

たくさん来ていただいて

ます。繁昌亭ができて

どっと増えました。

高 7%くらいの比率で

すね。ただ、今日の出演

者の春野恵子さん曰く、

浪曲界は女性の方が多い

くらいだそうで、現代日

本では希少な世界ですね。

工 阪大の研究者のうち

14.7%が女性で、昔に比

べるとかなり増えました。

学内でダイバーシティ環

境を広げていくためにも

のすぐ努力しています。

春 ダイバーシティって、

## 西郷どん生存説が生んだ事件

西郷隆盛は明治10年(1877)に西南戦争で亡くなった。が、真田幸村と同じく「西郷どんはどこかで生きているはず」と信じる者も多く、インドへ逃れたとかロシアに向かったなどの風説が絶えなかった。

その前年、土佐堀通四丁目の薩摩藩蔵屋敷があった場所に大阪上等裁判所(後に控訴院から高等裁判所となる)が移ってきた。西南戦争終結後、北浜や江戸堀に法律を学ぶ私塾ができたが、講師陣は上等裁判所の判事や検事(当時は裁判所内にあった)たちであった。やがて塾では物足りぬと、明治19年(1886)12月、京町堀二丁目の願宗寺を間借りして関西法律学校が開校したのである。東京にはすでに私立法律専門学校は五校あったが、関西では初である。

創立に関わった12名の大半は裁判官と検事。中でも柱となったのが当時、大阪控訴院院長だった児島惟謙。彼は

明治24年(1891)5月5日に東京へ転勤になるが、関西法律学校は京町堀で産声を上げてから、すぐに今の地下鉄御堂筋線淀屋橋駅南側へ移り、さらに天満の興正寺別院(今の滝川公園)へ。そして江戸堀から上福島へ。と、中之島界限を東へ西へ、はたまた南へ北へと移

転続きの苦難の末、大正11年(1922)に千里山に落ち着く。ご存じ、関西大学である。

さて、児島惟謙。時は明治24年5月。ロシアのニコライ皇太子が来日することになったのだが、なんと一緒に実はロシアに落ち延びた西郷隆盛も戻って来るといふ噂が出て、新聞も取り上げた。しかも、西郷の帰国は、西南戦争の報復だといふ尾ヒレまで付いたから大騒動になった。

そんな中、ニコライが来日したが西郷の姿はない。当然だ。しかし5月11日に事件は起こった。西南戦争での功

績で警察官になれた津田三蔵が噂を狂信し、ニコライに斬り付け、重傷を負わせたのである。政府は大逆罪を適用せよと裁判所に迫るが、大審院(今の

最高裁判所)院長は「法律は独立するものであり、法に照らしての判断のみが正しい」と、政治権力に屈せず無期徒刑としたのである。その院長が着任したばかりの児島惟謙だったのである。薩摩藩蔵屋敷跡と西郷生存伝説から始まる大阪の法曹界：「ほうそくかい」と言ってしまうようなお話。

きょうどう・なんかい  
1964年兵庫県加古川市生まれ。大阪大学文学部卒業前(1989年)に、三代目旭堂南海に弟子入り。1998年、大阪市より咲くやこの花賞を授賞。得意ネタに「天閣記「難波戦記」などがあり、「南海の何回続く会？」を毎月1回行うなど、続き読みの講談に力を入れる。

薩摩藩蔵屋敷跡

三井倉庫

大阪水上バス・岸田俊徳の

## 水辺で会いましょう



大阪水上バス株式会社企画宣伝部課長。ミナミの劇場プロデューサーを経て、関西・大阪21世紀協会にて大阪の文化事業に関わる。2010年より現職。

### 早起きはおいしい。

毎月1回、朝4時に起きて、始発に乗って出勤します。冬の早朝のホームは、まだ夜中のように真暗です。月に1回のことなのであまり意識はしないのですが、ふと同じ時間なのに少し明るくなっていくことに気づいたりします。朝一番に「ああ、もうじき春が来るのか」なんてことをしみじみ思いながら、電車の窓から外を眺めたりしています。



さて、なんで早起きかという、それははちけんやで毎月第1日曜日に開催される「八軒家浜市」の準備があるからなのです。新鮮な魚やお寿司が大人気の朝市で、この日ははちけんや前にある雁木でシティサップレースが行われたりします。もちろん僕も「はちけんやチーム」として参加の予定です。

はちけんやでは、こういったイベントを束ねて「お花見フェスタ」なるものを行っていますので、気楽にお越しただき、食に限らず、風景や体験もおいしく味わってください。

もちろん八軒家浜船着場からは「大川さくらクルーズ」を運航しているので、僕が船を操船しているかもしれませんよ！

※お花見フェスタの詳細は、右上の記事を参照

はちけんやお花見フェスタ

☎0570-03-5551

こころまちつくり  
**KEIHAN**  
大阪水上バス  
<http://suijo-bus.osaka/>



## 水辺で春の訪れを体感！ 「はちけんやお花見フェスタ」

一年中船が走っている中之島界隈だが、山や海のように「川開き」がある。暖かくなって水辺に人が集まり始め、船遊びが楽しくなる、まさに今のシーズンだ。そんな春の訪れを祝う「はちけんやお花見フェスタ」が、4月15日(日)まで京阪電車

天満橋駅直結の八軒家浜船着場で行われている。造幣局の桜の通り抜けと合わせて行くな、この季節だけの「大川さくらクルーズ」を川遊びの入り口にしてほしい。八軒家浜から帝国ホテルまで、パノラマビューで沿道の桜並木を見渡せる。  
土曜・日曜は、水辺ならではのスポーツ体験ができる



**水都大阪 川開き2018**  
「はちけんやお花見フェスタ」  
期間/4月15日(日)まで  
※プログラムによって開催時間や参加料金は異なる  
会場/八軒家浜・川の駅はちけんや  
問い合わせ/☎06-6942-0555  
(にぎわいXing)  
<http://nigiwaixing.wixsite.com/ohanamifesta>

ク、珍しいのは水上に浮かべた大きなパドルボードに乗って散歩を楽しむ「メガサップ」。期間中は、マルシェなども出店する。船に乗る人、スポーツを体験する人、お花見をする人、そんなにぎわう水辺を眺めに行くだけでも心が浮き立つ。(江口由夏・本誌)

の3月末に発行した第5号より「OSAKA MUSEUMS」としてリニューアル！タブロイド紙だった第4号までの仕様から一変し、8ページの冊子になった。季刊発行で毎月テーマが設定されており、大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館・

大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立科学館・大阪文化財研究所の常設展の見どころや収蔵品の魅力を紹介していく。自然史博物館にいるナウマンゾウや恐竜の骨格標本が表紙になった、今号のテーマは「驚く」。各ミュージアムの所



## 市内美術館や博物館の 情報誌がリニューアル!

蔵品で最も見応えのある作品が、一堂に会した。迫力ある写真と裏話は、めくってみてのお楽しみ。連載コーナーは学芸員のお仕事やミュージアムの名物など、実際に行きたくなる情報が満載。  
裏表紙では4月〜6月までの各館展示スケジュールも網羅。東洋陶磁美術館や科学館に行き慣れた島民諸君も、長居公園や天王寺に足を延ばしたミュージアムのハシゴはいかが。(江口由夏・本誌)

「OSAKA MUSEUMS」  
現在vol.5を無料で配布中。  
次号vol.6は6月下旬発行予定。  
主な設置場所/  
大阪市内の各種情報センター、  
交通施設、文教施設、  
観光事業者、ホテル、  
複合商業施設、区役所ほか  
問い合わせ☎06-6940-0550  
(大阪市博物館協会)

2018年4月1日発行



るプログラムも、「リバーサイドヨガ」に「フルディック・ウォー



# 「仕事場から家に帰るまでに、 思い出してもらえらる存在になれば」

カウンターに乗っている大きな生ハムの脚、目立ちますよね。有名なスペイン産生ハム「ハモンセラノ」は、オープン当初から人気のメニューです。特別なイベリコ豚、ベジータのサラミもあるの

で、食べくらべもおすすです。イベリコ豚はドングリを食べて育つと知られていますが、一方でメニューにもある「ガリシア栗豚」はスペイン・ガリシア州の特産品である栗を食べて育つた品種です。実は、スペイン料理では、豚肉はともポピュラーな食材。ダイナミックに丸焼きにしたりして、牛や鶏よりよく食べられています。

とかもしれません。小皿料理のタパスなら、イベリコ豚の濃厚な味をパテで包んだ「パテ・ド・カンパニー」もいけますよ。パエリアのようなメイン料理も有名ですが、スペインバルといったらやっぱり

るとい人も多いんですよ。本場がそんな食文化ですから、中之島でもリラックスして楽しく食べて飲んでほしい。2回目のお客様は「いらつしゃいませ」ではなくて、「おかえりなさい」「お久しぶり」です。常連さんと「今日は早いですね」とおしゃべりすることも。出迎える側が固くならないように、気をつけています。こちらが緊張すると、お客様



「プ」という字が豚のしっぽに見えるというところもあり、この店名になりました。それくらい、スペインでは豚肉料理のパリエーションが広いんです。とはいえ、シンプルに焼いた「ブランチャ」が、一番肉のうまみがわかりやす

タブラス。実は、タブラスは「鍋の蓋」という意味なんです。スペインでは、お店の人に「蓋の上にとちよつと料理を乗つけて」と言うような感覚で、少しずつたくさん種類を食べるのが醍醐味。そして、たくさんおしゃべりする。日本のおばんざいのように、カウンターの皿から見繕ってもらいます。朝の10時から生ハムとワインで始め、そこから何軒もハシゴす

も緊張してしまふ。そうなる、バルの良さは失われてしまふ。仕事から解放されて家に帰るまでに、うちの存在を思い出して、今日は寄ってみようかなと考えるくださつたら嬉しいですね！

日常的に使ってほしいから、大事なものは飽きさせないこと。この4月からメニューを一新しました。ちよつと寄り道していきませんか？



肩肘張らない接客にファン急増中!  
**【中之島スペインバル erco】**  
 副店長  
**松浦俊夫さん**



祝祭へようこそ。

FESTIVAL  
**PLAZA**

<http://festivalplaza.jp/>  
 提供/株式会社 朝日ビルディング

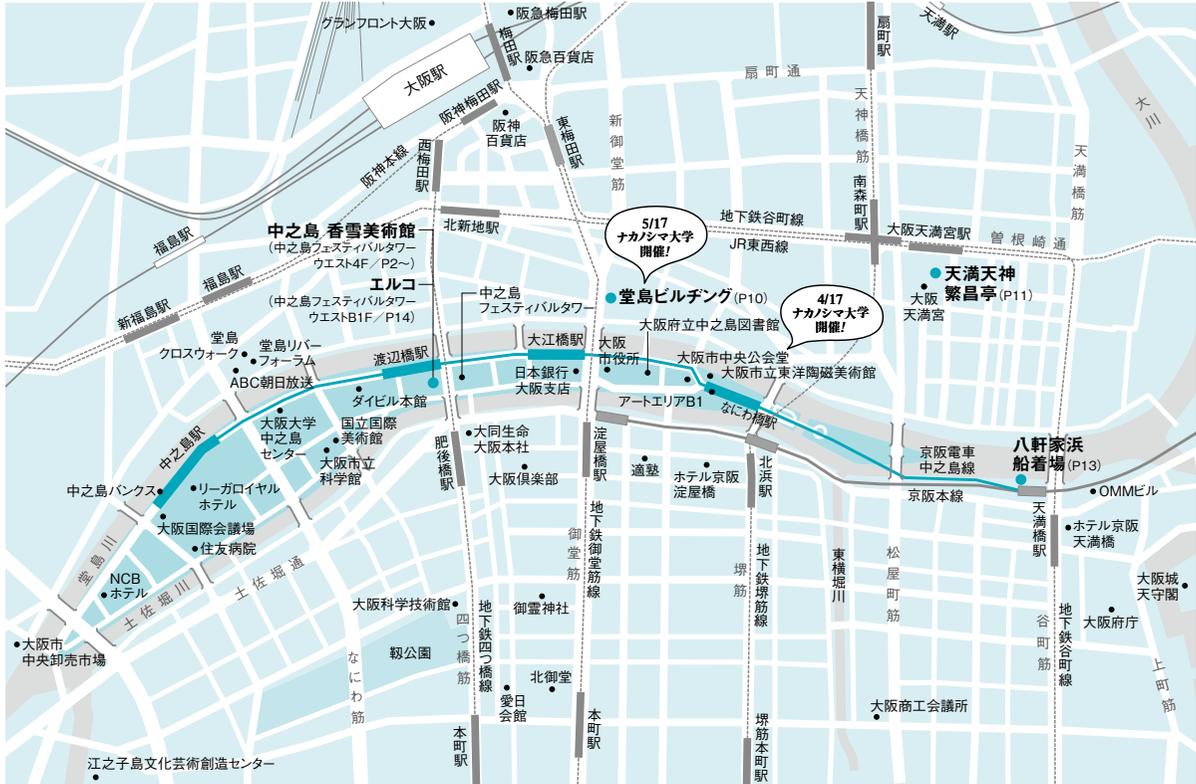
Information from 中之島スペインバル erco [中之島フェスティバルタワー・ウエストB1階]

世界三大生ハムのひとつ「ハモンセラノ」(Mサイズ980円・Sサイズ680円)は、相性抜群のワイン(グラス480円〜)と。赤白そろった自家製サングリア(グラス500円)も見逃せない。スペイン料理を満喫できるコース(2時間飲放題付全8品3,800円〜)も要チェック。昼は、豚の一枚肉をグリルやカツにしたボリュームランチ(880円〜)が男女のオフィスワーカーに好評だ。☎06-6484-6511 11:00AM~11:00PM(ランチは5:00PMまで)



# 大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、  
みんな「島民」です！



## 『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪グループ 京阪電車主要駅 / 京阪特急プレミアムカー / ホテル京阪 淀屋橋 / ホテル京阪 天満橋 / ホテル京阪 京橋 / グランデ / パナテ京阪天満橋 / 京阪シティモール / 京阪モール
- 大阪府北区・中央区・福島区 【書店】旭屋書店 梅田地下街店 / 大阪高裁内ブックセンター / 紀伊國屋書店 梅田本店・グランフロント大阪店・本町店 / ジュンク堂書店 大阪本店・天満橋店 / MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店 / 文教堂書店 淀屋橋店 / 隆祥館書店 【公共施設・大学関連施設など】アイズポット / 朝日カルチャーセンター / 味の素 ライブラリー / ABC朝日放送 / 大阪企業家ミュージアム / 大阪倶楽部 / 大阪工業技術専門学校 / 大阪国際会議場 / 大阪市中央公会堂 / 大阪市立科学館 / 大阪市立総合生涯学習センター / 大阪市役所市民情報プラザ / 大阪城天守閣 / 大阪商工会議所 / 大阪大学中之島センター / 大阪21世紀協会 / 大阪府立中之島図書館 / 大阪ボランティア協会 / 大阪歴史博物館 / 追手門学院 大阪梅田サテライト / 川の駅はちけんや / 関西学院大学 大阪梅田キャンパス / 慶應大阪シティキャンパス / 国立国際美術館 / CITYNAIL'S インターナショナルスクール / 芝川ビル / 市立住まじ情報センター / 少彦名神社 / 中央電気倶楽部 / 適塾 / ドーカ / ホテルNCB / ミビク扇町 / 立命館大阪オフィス / 龍谷大学大阪梅田キャンパス
- 【店舗・医院など】アンドール 本町本店 / 上町貸自転車 / 学運堂 / Books 呼文堂 / 水嶋書房 くずはモール店 / 大阪狭山市立図書館 / 大阪市立難波市民学習センター / 大阪大学中之島センター / 龍谷大学大阪梅田キャンパス
- 【店舗・医院など】喫茶SAWA / グラズイト中之島 / 黒門さかえ / コモンカフェ / The Court / サトウ花店 中之島本店 / ザ・メロディ / シアトルベストコーヒー・新聞電ビル店 / じろう亭 / Girond's JR / 心齋橋山田兄弟歯科 / 住友病院 / センイレブ大阪証券取引所店 / タビエスタイル / たまがわ鍼灸整骨院 / 東郷歯科医院 / NAKAGAWA1948 淀屋橋店 / ナンジャー / パストラーレ / 花かつ / BAR THE TIME 天神 / 平岡珈琲店 / ビルマニアカフェ / FOLK / フレイムハウス / ミニジロ / 宮崎歯科 / やきとりばかや / 吉田理容所 / LES LESTON
- 大阪市内その他 【書店】旭屋書店 なんばCITY店 / 紀伊國屋書店 京橋店 / ジュンク堂書店 難波店 / 福島書店 / 柳々堂 / ルーブル書店 【公共施設・大学関連施設など】大阪科学技術館 / 大阪市社会福祉研修・情報センター / 大阪市立中央図書館 / 大阪府立中之島文化芸術創造センター / 川口基督教会 【店舗・医院など】あじさい / アートアンドクラフト / 欧風食堂 ミリパル / 大阪シティ信用金庫 江戸堀支店 / 御伽かもめ / カルチャーカフェ上方 / Calo Bookshop and cafe / 写真とプリント社 / 鳥かごキッチン / ネイルサロン スワナ / パルビコ / ホステル64オオサカ / MANGUEIRA / Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店 / 学運堂 / Books 呼文堂 / 水嶋書房 丹波橋店 / 伊丹市文化振興財団 / 川のほとりの美術館 / 納屋工房 / タバーン・シンパソン / 百練 / 奈良県立図書館情報館 / 龍谷ミュージアム
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店 / 恵文社 一乗寺店 / 水嶋書房 丹波橋店 / 伊丹市文化振興財団 / 川のほとりの美術館 / 納屋工房 / タバーン・シンパソン / 百練 / 奈良県立図書館情報館 / 龍谷ミュージアム
- 東京 往来堂書店 (千駄木) / BOOKSルー工(吉祥寺) / B&B(下北沢) / 隣町珈琲(原宿中庭) / ONLY FREE PAPER(東小金井) / かもめブックス(新宿)

## ◎バックナンバーが見られます。

最新号の発行と同時に、ひとつ前の号がweb上で閲覧できるようになります。創刊号から見た方はこちらから。<https://nakanoshima-daigaku.net/about/tomin/>

## ◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

## 次号予告 パーについて。

パーでお酒を飲み、それについて書くことは、すなわち街で生活することや、街そのものについて考えることではないか。

●『月刊島民』vol.118は2018年5月1日発行です！

編集・発行人 / 大迫力(編集集団140B)  
編集・発行 / 月刊島民プレス  
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)  
松本 創 江口由夏(編集集団140B)  
〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルディング602号  
TEL.06-6484-9677 FAX.06-6484-9678  
制作進行 / 堀西 賢(ALEGRESOL)  
デザイン / 山崎慎太郎  
表紙イラスト / 奈路道程  
印刷 / 佐川印刷株式会社

# Mの肉ランチ × おけいはん

"M"no NIKU LUNCH

O KEI HAN

肉こそ、究極の…

(^Д^)ウマー!ですね、達人!

[今回の達人]  
M三郎



森のロマン亭 くずはモール店 / 出町柳 けい子

沿線のいろんな駅をめぐって、活力みなぎるランチにご対面。

達人、<sup>ムミダニ</sup>M三郎さんが教えてくれたのは、  
京阪沿線のいちおし「肉ランチ」スポット。  
食べ歩きや極意や楽しみ方をたっぷり教わりました。  
くわしくはwebマガジンを見てくださいね。

**めざせ! 沿線の達人**

webマガジン《Mの肉ランチ編》公開中! >>> [www.okeihan.net](http://www.okeihan.net)   
京阪電車主要駅のチラシもご覧ください。



京阪の  
おけいはん、